

○五月女 友美（宇都宮大・院） 赤塚 朋子（宇都宮大）

【目的】今日地球環境問題は、ますます深刻化を増し、それに伴い、私たち生活者においては、消費スタイルの変更が求められている。そのような中で、家庭科教育においても消費者教育の担う役割は変化している。消費者問題への対応ばかりではなく、環境に配慮した消費行動のできる生活者の育成をも含む内容が求められ、消費者教育の重要性は増している。

そこで本研究では、高校生の環境配慮型消費スタイルへの意識調査を元に、高校生の消費に対する意識を踏まえた上で、高校家庭科として環境教育と融合した消費者教育のあり方を模索することを目的とする。

【方法】栃木県立高等学校定時制の生徒を対象に、アンケートを実施し、そのアンケート結果を元に環境教育と融合した消費者教育の実践を行い、授業による生徒の意識の変容を検討した。

【結果】アンケートから環境に配慮した消費への意識・実践共に低いという結果が出た。そのアンケート結果を元に授業実践を行い、授業前と後とでは、生徒の環境に配慮した消費への意識に変化がみられた。